

標準作型

○印・播種

□印・収穫

作 型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
マルチ					○○				□			
露地					○	○			□			

栽培のポイント

畑を選ばず栽培できるが、カルシウムが不足すると出来が悪くなる。
連作は避ける (2~3年栽培しない)。

畑の準備 苦土石灰 (6~8kg/a) を播種の半月ぐらい前に施しておく。

元 肥 (1 a 当たり使用量)

肥料名	施肥量	施肥時期
日の本化成 12 号	6~8 kg	播種半月前
ようりん	2~4 kg	

採 種 3月頃に莢を剥いて種子を取り出す。あまり早いと硬くなり発芽が悪くなる。
光沢が良く、中程度の大きさで、若干種皮にしわが残るものを種子とする。
3年毎に種子更新する。

播 種 マルチ栽培は5月上旬~下旬、露地は5月中旬~6月上旬に行う。
うね間 60~70 ㌢ 株間 25 ㌢ 播種量の目安: 1 kg/a (2粒まき)
一箇所に1~2粒程度、播種して3㌢ぐらい覆土する。発芽時には鳥害に注意する。
初期の生育が遅いので雑草に負けないように除草は早めに行う (マルチ栽培は生育を
早め、雑草防除の手間が省ける)。

マルチ除去 マルチは子房柄がマルチを挿す前の7月上旬頃除去する。マルチの中心に鎌など
で切れ込みを入れると除去し易い。

土寄せ 開花が始まり、子房柄が伸び始めた株から少し離して土寄せする (子房柄が土
の中に入り込み易くするために高めに盛る)。

草丈が 30~40 ㌢に伸び、分岐してきたころ株元付近の 15 ㌢ぐらいの範囲に土を寄
せる。マルチは土寄せの前に7月上旬頃除去する。開花後数日たつと子房柄が地面
に向かって伸び始め、土中に潜入する。その後4~5日で子房が太り始める。

病虫害防除 コガネムシ類幼虫は、土の中にできた莢を食害するので、播種前もしくは播種時に
防除しておく。

収 穫 葉が少し黄変し始めた頃に試し掘りをする (未熟だったら約5日置きに試し掘り
をする)。

茹で豆用は、完熟莢が40~70%頃に収穫をする。

煎り豆用は、莢の網目がはっきりし、白色を帯びた淡い褐色となっていたら収穫
する。

乾 燥 根を切ってから莢を上にして乾燥させる。莢をふるとカラカラ音がするまで (水
分10%) 乾燥する。乾燥中の鳥害に注意する。